

平成20年3月13日

報道機関 各位

東 北 大 学

「東北大学サイエンスカフェ」2008年度前期プログラムの決定

「東北大学サイエンスカフェ」はコーヒーカップを片手に、市民と研究者がサイエンスについて気軽に話し合い、サイエンスの楽しさと社会貢献の姿を知ってもらう場として2005年8月にスタートしました。毎月1回のペースでせんだいメディアテークを会場に開催していますが、2008年度前期のプログラムについて下記のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

記

会場：せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア／カフェ

開催時間：18:00～19:45

第33回 4月25日(金) 齋藤 理一郎 (東北大学大学院理学研究科教授)

「カーボンナノチューブの科学によろこそ ～円筒形物質の発見と使い方～」

第34回 5月23日(金) 林 正人 (東北大学大学院情報科学研究科准教授)

「量子暗号・量子情報処理 ～新しい通信と情報処理～」

第35回 6月20日(金) 田所 諭 (東北大学大学院情報科学研究科教授)

「レスキューロボット最前線」

第36回 7月25日(金) 高橋 幸弘 (東北大学大学院理学研究科講師)

「手作り小型衛星 SPRITE-SAT で宇宙雷の謎に迫る」

第37回 8月22日(金) 猪股 宏

(東北大学大学院工学研究科超臨界溶媒工学研究センター教授)

「超臨界で地球をクリーニング ～衣服から IC、文化財まで～」

第38回 9月26日(金) 山下 まり (東北大学大学院農学研究科教授)

「海洋生物毒の謎を探る ～フグはなぜ毒をもつのか～」

お問い合わせ先

東北大学サイエンスカフェ WG コーディネーター

吉澤誠教授 TEL:022-795-7128

東北大学広報部広報課 TEL:022-217-4816

Tohoku University Science in Café Sendai



やさしく学べます。旬のサイエンス。
～暮らしの合間に科学のエッセンス。

東北大学サイエンスカフェ

その場での参加自由！市民の方、中高生、大学生、企業の方、メディアの方、親子での参加歓迎！

2008
前期
プログラム

第33回 | 4.25金
カーボンナノチューブの科学によるこそ
～円筒形物質の発見と使い方～
◎齋藤 理一郎 (東北大学大学院理学研究科教授)

第34回 | 5.23金
量子暗号・量子情報処理
～新しい通信と情報処理～
◎林 正人 (東北大学大学院情報科学研究科准教授)

第35回 | 6.20金
レスキューロボット最前線
◎田所 諭 (東北大学大学院情報科学研究科教授)

第36回 | 7.25金
手作り小型衛星SPRITE-SATで
宇宙雷の謎に迫る
◎高橋 幸弘 (東北大学大学院理学研究科講師)

第37回 | 8.22金
超臨界で地球をクリーニング
～衣服からIC、文化財まで～
◎猪股 宏 (東北大学大学院工学研究科
超臨界溶媒工学研究センター教授)

第38回 | 9.26金
海洋生物毒の謎を探る
～フグはなぜ毒をもつのか～
◎山下 まり (東北大学大学院農学研究科教授)

※テーマ・講演者については都合により変更となる場合があります。

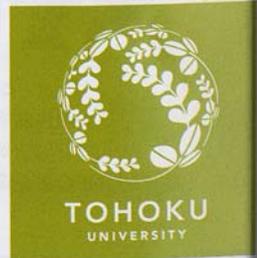
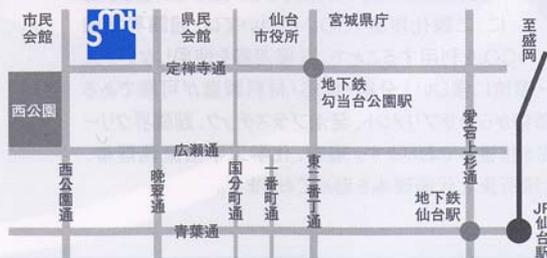
会場 せんだいメディアテーク
1階オープンスクエア／カフェ

時間 18:00～19:45 (17:30開場)

参加費 無料 (事前申込は不要です)

[お問い合わせ] 東北大学広報課 tel.022-217-4977

<http://cafe.tohoku.ac.jp/>



Science Café in Sendai

「サイエンスってむずかしい」、「質問したいことがあるけれども誰に聞いたらよいかわからない」

サイエンスカフェとは、そう思っている人たちと科学者が、
コーヒーカップを片手にサイエンスについて気軽に話し合い、サイエンスの楽しさと社会貢献の姿を知ってもらう場です。

せんだいメディアテーク1階のオープンスクエア/カフェを会場に、毎月1回のペースで開催します。

予約なしに、無料で、誰でもその場で自由に参加できるスタイルです。

職場での仕事や学校が終わってから参加できるように、平日の18:00~19:45に開催します。

市民の方、中高生、大学生、企業の方、メディアの方の参加をお待ちしています。

最初に、取り上げた話題に関する最新の研究成果を一人の講演者が分かりやすく紹介します。

次に、ラウンドテーブルごとのトークタイムとして、それぞれのテーブルに東北大学の学生・教員がファシリテーターとして参加し議論します。

最後は、全体的な質疑応答の時間とし、ラウンドテーブルでの議論で出た質問に講演者が答えます。

Scientist Profile



さい どう り いち ろう
齋藤 理一郎

東北大学大学院理学研究科教授

齋藤教授は、ナノチューブの理論的研究を
発見当初から幅広く行っています。ナノチュー
ブに関する論文で引用件数が100を超えるもの
が21本あり、そのうち1つは1000を超えています。

1999年にIBM科学賞、2006年にHsun Lee Research
Award を受賞しました。高校の出前授業や東京や名古屋のサイエンス
カフェでも積極的に講演しています。趣味は畑仕事、卓球、テニス他。



はやし まさ ひと
林 正人

東北大学大学院情報科学研究科准教授

林准教授は、これまで量子情報処理を専門
に研究してきました。量子情報処理では、光の
粒である光子や電子などの量子性を持つ素子
を用いて情報処理を行います。これまで、量子情報
処理の様々な性質を明らかにする研究を行ってきました。

特に、不完全な素子を用いた場合でも量子暗号の安全性を定量的に
保証する理論を構築し、量子暗号の実用化に向けて貢献しています。



た どころ さとし
田所 諭

東北大学大学院情報科学研究科教授

田所教授はレスキューロボットの学術分野
を世界的に創始したことで知られています。ロ
ボカップレスキュー、IEEE TC、NPO法人国際
レスキューシステム研究機構などを設立・創始し、

文科省大大特レスキューロボットプロジェクトやNEDO
プロジェクトの研究代表者を務め、日本バーチャルリアリティ学会論文賞、
日本機械学会ロボメカ部門学術業績賞などを受賞しています。



たか はし ゆき ひろ
高橋 幸弘

東北大学大学院理学研究科講師

高橋講師は、雷放電からオーロラ、惑星大
気まで、地球および惑星における大気とプラズ
マに関連する発光現象を研究しています。最近
は、地上からの観測に加え、人工衛星や大気球な
ど飛翔体に観測機器を搭載した多くのプロジェクトを

推進しており、金星探査計画でも雷観測器の責任者を務めます。1995
年からは落雷に伴って宇宙と地球の間で起こる発光の観測に取り組み、
新現象の発見などで世界をリードしています。



いの また ひろし
猪股 宏

東北大学大学院工学研究科
超臨界溶媒工学研究センター教授

猪股教授は、化学工学分野の中で、超臨界
流体技術に関する研究を専門としています。特
に、二酸化炭素(CO₂)については、超臨界状態
のCO₂を利用することで、有機溶媒を使用しない「人

と地球・環境に優しい」分離・反応・材料製造が可能である
という信念で、天然物からのサプリメント、発泡プラスチック、超臨界クリ
ーニングなどの研究を推進しております。現在、化学工学会庶務理事、
NPO法人環境会議所東北代表理事を勤めております。



やま した
山下 まり

東北大学大学院農学研究科教授

山下教授は、天然由来の生理活性物質の
研究が専門です。特にヒトに毒作用をもつ海
洋生物毒を中心に研究し、単離と化学構造の
解明および分析方法の確立を行うとともに、毒の
起源生物や毒作用に関する生物学的側面も追求し

ています。グアム、東南アジア、北米、中米、ヨーロッパなどから、
多種の生物サンプルを得て、総合的な研究を目指しています。2004年
には、パナマ産のヤドカエルの毒が貝毒と類似した化学構造をもつこ
とを明らかにし、注目を集めました。